

# 支援活動の報告

皆様のご協力のおかげで、パレスチナ子どものキャンペーンでは、2023年の10月22日からガザ現地での支援活動を開始し、現在も継続しています。23年10月から24年5月初めまでに、ガザでは9000万円を超える緊急人道支援を実施できました。

改めて心からの感謝をお伝えするとともに、以下ご報告いたします。また、危険を顧みずに、コミュニティのために尽力している当会現地職員、提携団体職員、ボランティアたちに心からの敬意を表します。  
(彼らの声はP5, 6を参照してください)

## ■炊き出しと給水支援

2024年1月5日から、150万人が避難していた南部のラファで、現地提携NGOの「アマル」と一緒に炊き出しを継続。毎日テント村2カ所で1200~1500人分の温かい食事を提供しました。その日に調達できる食材を使い、調理や配膳スタッフには避難してきた人々を雇っています。ラマダン(断食月)の後半には、チキンを提供できてとても喜ばれました。

当会は国連から燃料の提供を受けることができるため、複数の現地提携NGOにも燃料を分けています。また12月末から給水車に提供して、毎日6000リットルの飲料水をテント村の住民世帯に提供してきました。

給水支援



炊き出し

炊き出しと給水の活動は、イスラエル軍のラファへの侵攻が始まった5月7日以降いったん中断していましたが、5月21日よりディールエルバラフ地区で再開しました。

## ■保健支援

当会では2014年以降、ガザでの保健医療支援を継続して、特に障がいを持った人たちのリハビリと母子保健を提供してきました。

23年はガザ市で現地NGOの「中東教会評議会—ガザ事業部」と一緒に母子保健を提供していましたが、10月以降ガザ市が戦場になってしまったため活動を中断し、12月にラファに移動して再開しました。診療所は妊婦や乳幼児だけでなく、老若男女で毎日混雑していましたが、ラファ東部の軍事侵攻地域にあるためいっ

2- サラーム No.129 [2024.5.25]

たん撤収し、現在ガザ市の仮施設で活動を再開しています。

また中部で、避難所やテント村へ医療チームを派遣する活動を開始しました。病院の機能がとまっているため、とても重要な活動ですが、医薬品や栄養食品の不足が深刻です。  
(右上の写真の子どもは、腕が細くて、栄養失調と診断された)



## ■物資配布・現金給付

23年の10月~12月に、まず30年来の提携NGOである「アトファルナろう学校」と一緒に、障がい者世帯への食料や衛生用品などの配布を開始しました。

また、やはり提携NGOの「ナワール児童館」の母体であるCFTAと一緒に、電子マネーによる現金給付を実施しました。現地は大混乱で状況が見えず、北部の団体は南部に移動するなどの中、当会現地職員と提携団体の頑張りにはこちらが励まされました。

1月以降現在も、助成金なども得ながら、現在避難者が多くいるディールエルバラフ地区で、アトファルナろう学校、新しい提携団体の「社会開発フォーラム」



エジプトからの飲料水搬入を喜ぶ子どもたち

## ■子ども支援

23年の11月以降、アトファルナろう学校、ナワール児童館、「創造的な教師センター」と一緒に避難所やテント村で、子どもたちのリクリエーションや心理的保護の活動を続けています。

現在は、ディールエルバラフとハンユニスで、毎日300人以上の子どもや母親などに様々な遊びやワークショップ、カウンセリングなどを提供しています。怖い思いや悲しい思いを経験している子どもたちに、少しでも楽しい空間や笑う時間を提供し、思いを発散したりできるように現地のNGOスタッフたちは頑張っています。

(子どもたちの声はP4を参照してください)

ラファのクリニックの混雑している様子



配布用の野菜の袋詰め

と一緒に食料や衛生用品の配布を継続しています。現状ではまだ物資の調達が可能です。

また、11月から準備していた第一弾のエジプトからの物資(食料、水、毛布)は3月と4月にガザに入り、多くの人たちに配布することができました。

引き続き、エジプトやヨルダンからガザに物資を搬入するための努力も継続しています。



お弁当形式の炊き出し配布

ラマダンの配布



子どもたちのイベント



母親向けの心理サポート